

なんケア通信

第34回 南部圏域の地域包括ケアを考える会(なんケアの会)を開催しました。

開催日時：令和4年12月2日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」 2階 地域文化ホール

参加者：41名(介護事業所関係者 15名、医療機関関係者 10名、
地域包括支援センター 5名、調剤薬局 3名、その他 3名)

演題

『 認知症のきほんとその対応について 』

秋田大学 高齢者医療先端研究センター
センター長・教授 大田 秀隆 先生

今回は認知症の概要・周辺症状・認知症状の対応について、先生の日々の診療の事例を交えてお話していただきました。

認知症の症状がひどくなると、すぐに薬を追加して鎮静をしようとしてしまいがちですが、その前に特有の要因があるのではないかと考えることが大切だということを教えていただきました。

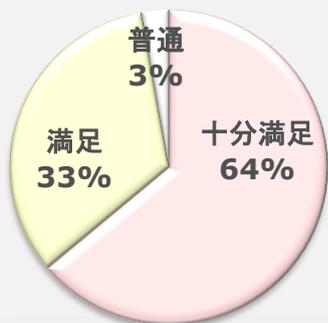
認知症介護の中心は、医師ではなく介護職であり、現場の対応次第で状況が変わることもあるというお話もありました。大田先生の話術や内容に引き込まれて、とても有意義な講演でした。

大田先生、貴重な講演ありがとうございました。

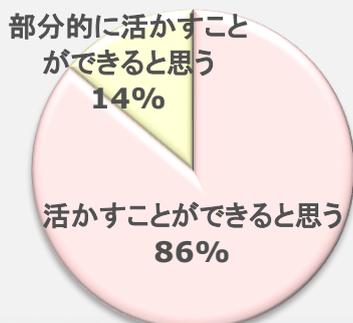
アンケート結果

回収率：87.8%(アンケート配布：41名、回収：36名)

なんケアの会に参加して
いかがでしたか？



今後、地域での活動に
活かすことができそうですか？



会場の様子



講師の大田先生



皆様からのご意見・ご感想

大田先生の話、とてもわかりやすく、時間がもう少し欲しいくらいでした。先生の経験談の話も交えて身近のあるあるにふれて頂き、これからの対応に活かせそうです。介護職への温かい言葉も心にしました。ありがとうございました。

(介護支援事業所関係者)

物とられ妄想がみられるご利用者様へ、優しく一緒に過ごす時間を取っていきたい。先生が話されたように全人的な対応をしていきたいと思いました。

(介護支援事業所関係者)

これからもご本人の想いを傾聴し、それぞれの世界に対応していきたいと思いました。

(介護支援事業所関係者)

対応の方法により改善がみられる事を学びました。

すぐに医師に助けをもとめるのではなく、より身近にいる介護者の対応を考えていく必要があると思った。

(介護支援事業所関係者)

介入の仕方によって改善できるとの言葉に希望が持てました。

仕事でも利用者さんへの対応を考え直したい。

(地域包括支援センター)

次回開催のお知らせ

開催日時：令和5年2月3日(金) 18:00~19:15

会場：南部市民サービスセンター「なんぴあ」